

青森築港落成式

村上 亜弥

(青森市民図書館
歴史資料室 職員)

2025(令和7)年は「青森開港400年」の節目の年といわれ、青森港周辺でさまざまな催しが行われた。ただし、400年前の「開港」は港の設備

を整えるという性質のものではなかった。青森港において近代的な港湾整備が進められたのは大正時代のことである。

青森港の修築を求める動きは明治20年代からみられ、明治30年代には県を挙げた運動となった。1910(明治43)年5月に青森市が大火に襲われると、災害復興の一環として青森港速成運動が

展開された。

そして、青森

港の修築は19

14(大正3)

年度から191

9(大正8)年

度までの6か年

計画で実施する

こととなり、1

915(大正4)

年6月に起工式

が行われた。第

一次世界大戦の

影響で物価が高

騰して予算不足

となり、施工期

間の延長を余儀

なくされたが、1924(大正13)年8月に竣工した。

1924(大正13)年8月2

8日、青森港の海岸埋立地で「青

森築港落成式」が举行された。式

典会場の前には「竣工式場」の文

字を掲げた大アーチや祝賀門が建

てられた。また、芸妓による仮装

行列、花火の打ち上げ、市内の学

校の児童生徒や青年団などの団体

による提灯行列といった催しも企

画され、式典会場周辺は昼も夜も

にぎわった。

「青森築港落成式」には、内務大

臣の若槻礼次郎(のちの総理大臣)

が臨席している。若槻は8月25

日に小樽築港落成式、26日に札

幌豊平橋開通式に出席したあと、

函館で1泊し、28日正午入港の

青函連絡船「翔鳳丸」で来青し

た。到着後、すぐに小型船で港内

を視察し、中島旅館で休憩してか

ら式典に臨んだ。

落成式に続き、新町尋常小学校

を会場に祝賀会が開催された。若

槻はその席上で青森港を「商業取

引から見ても北海道の拓殖関係か

ら見ても極めて必要なる港」と評

価した上で「今一段の大規模の修築」が必要であるとの考えを示した。

なお、祝賀会では長年青森港の修築

運動に関わってきた青森市長の工藤卓

爾も「第二の拡張」の必要性を訴えて

いる。築港落成は青森港修築の完了で

はなく、修築の「第一步」と捉えられ

ていたようである。

さて、写真のオブジェ(高さ約10

センチメートル)は祝賀会の会場で参

加者に贈られた記念品である。192

4(大正13)年8月28日付の『東

奥日報』は、記念品について「青銅造

りの灯台をかたどった懐中時計掛」と

紹介している。

懐中時計掛を収める桐箱は、蓋の表

面に「青森築港竣工記念」という金色

の刻印があり、裏面には「大正拾参年

八月二十八日」と墨書きされ、底面

は製造者の「内外徽章製作所(東京市)

のシールが貼られている。築港落成の

日の熱気を伝える貴重な資料である。

ちなみに、この懐中時計掛によく

似た灯台を青森県史編さん資料の絵

はがき「青函連絡船鉄道岸壁横附」

で確認することができる。青森県史

デジタルアーカイブシステムよりご

覧いただければと思う。



青森築港竣工記念の懐中時計掛
2026(令和8)年5月14日・筆者撮影